

## 日本医療薬学会第7回フレッシュャーズ・カンファランス開催報告書

第7回フレッシュャーズ・カンファランス  
実行委員長 根岸 健一

2024年6月15、16日（土・日）、日本医療薬学会第7回フレッシュャーズ・カンファランスを北里大学薬学部白金キャンパス（東京都港区）にて開催いたしました。

本カンファランスは薬学生や院生、研究活動経験の浅い薬剤師を主な対象とした研究成果の発表の場として、2017年より、第1回大谷壽一先生（慶應義塾大学）、第2回桂敏也先生（立命館大学※自然災害により中止）、第3回渡辺茂和先生（帝京大学）、第4回中村敏明先生（大阪医科薬科大学※新型コロナウイルス感染症の拡大で1年延期後オンライン開催）、第5回伊藤清美先生（武蔵野大学）、第6回内田まよこ先生（同志社女子大学）と引き継がれてきました。

第7回フレッシュャーズ・カンファランスでは、研究や成果を共有する場を提供するとともに、更なる研究を志向していただくため、対面での交流を考えた現地開催のみとし、フレッシュャーズ・カンファランス初の「2日間開催」「懇親会開催」「医療薬学教育委員会企画」の3つの試みを実施しました。

今回は、参加登録者284名のうち学生登録数は126名と、本カンファランスの趣旨に合致したかたちになっており、初めての開催となった懇親会は、収容人数を超えた申込により130名までに制限させていただくほどの盛会となりました。特に、懇親会では、発表者となったフレッシュャーズの多くが、座長などのベテランと、文字通り懇親していただけたようで、ベテランの参加者ほど懇親会が良かったとの感想をいただきました。

演題をご登録いただいた口頭59演題、ポスター48演題の合計107演題にご発表をいただき、どちらもフロア参加者からの質問が多く、座長を交えた活発な質疑応答をされていたことが印象的でした。また、全ての演題（発表者が交代となった演題を除く）について、座長兼評価者40名に、優秀演題発表賞の選考を依頼し、口頭発表22演題、ポスター発表16演題の合計38演題を優秀演題発表賞として表彰させていただきました。

教育講演では、東京大学医学部附属病院薬剤部教授/薬剤部長の高田龍平先生より「病院薬剤師としての医療薬科学研究」のご講演を賜り、薬剤師として研究マインドを持ち続けて実行していく重要性を、ご自身の経験と重ねてお話しいただき、日々の業務に埋もれない気持ちが大切だと感じました。

また、医療薬学教育委員会企画は、委員長の村木優一先生（京都薬科大学）を中心に、委員の方々にもご協力をいただき、継続的な学会活動や交流の場としての活用方法をご講演いただいた後、実際に交流を行う内容で、ほぼ満席の盛況になりました。

第7回フレッシュャーズ・カンファランスを開催するに当たり、ご発表・ご参加いただいた方々をはじめ、座長兼評価者となっていたいただいた先生方、基調講演をいただいた高田先生、医療薬学教育委員の先生方、また盛會に導いていただいたオブザーバーと実行委員の先生方に感謝を申し上げます。

末筆になりますが、開催までの下支えを担っていただいた星様・阿部様を含めた日本医療薬学会事務局の皆様、高橋様を中心に運営補助をいただいたソウブン・ドットコムの皆様、本学運営協力者の教職員・学生の皆様と、地域医療薬学の関係者に、心からの御礼を申し上げます。